

令和5年度村政運営の所信

「未来へ挑戦する東通村へ」

東通村長 畑中稔朗

私は、令和3年4月の村長就任以来、自らが掲げたスローガンの下、施策や事業を組み立て、政策を展開して参りました。

早いもので、2年が経過し折り返しとなりますが、住民との対話を重視し、村民が主体の行政運営を実現すべく、その基本姿勢として、村民の皆様の声に耳を傾け、対話するため「東通円卓会議」を実施、また、テーマを設け「芸能団体」や「若手漁師」を中心とした意見交換を行いました。

そして、村の未来を担う子どもたちの意見を村政に反映させることを目的に、小学生を対象とした円卓会議の開催に加え、昨年度に引き続き「中学生議会」を開催し、子ども達が普段の生活で感じている、教育設備等の充実や地域の活性化についてなど、様々なご提案をいただきました。

私が最も大切にしている施策でありますので、今後も継続して実施して参ります。

「ご意見ご要望のあった、道路や側溝整備など、生活に密着した事務事業については速やかに対応を図り、旧木造校舎や教員住宅解体工事も目処が立ち、未着手の旧校舎等についても、財源を見極めながら進めることとし、国、県の施設以外の、いわゆる法令に基づかない村独自の施策は、村民の声に耳を傾け、民意を尊重し総合的に判断して参ります。

また、役場と地域・住民との距離を縮め、安心感、生活環境の向上に繋げるため、村政の積極的な情報発信に努めて参ります。村広報紙の更なる充実、村ホームページの随時更新、ライン・インスタグラム・YouTubeを活用した情報発信、様々なメディアの協力をいただき、村の「今」「旬」を伝えて参りたいと考えております。

原子力との共生を掲げる我が村であります。東日本大震災から12年が経過したにも関わらず、東通原発の現状は、なかなか先が見

通せない状況にあります。

発電所をはじめ、原子力関連産業からの恩恵を、住民が享受できず、その真の共生であり、持続可能でなければならぬと、私は、常々申しております。

今後の脱炭素を進めるためには、ベースロード電源として、原子力の比率を上げることが不可欠であり、国の、地に足がついた形での原子力政策の進展を、注視いたします。

季節が前に進むように、着実な前進を切望致します。

さて、今年度は、14課、3事務局、1室の組織体系のもと、職員一丸となって村政運営に努めて参ります。

主な事業につきましては、別に記載させて頂いておりますが、常に住民の立場、相手の立場で考え、仕事と向き合い、最善を尽くす所存でありますので、どうぞ宜しくお願い致します。

